

花粉熱—花粉症を初めて紹介した記録

「この病気が日本にもあるかどうかは知らないが欧米に Hay-fever なる一種の流行病があるさうである」

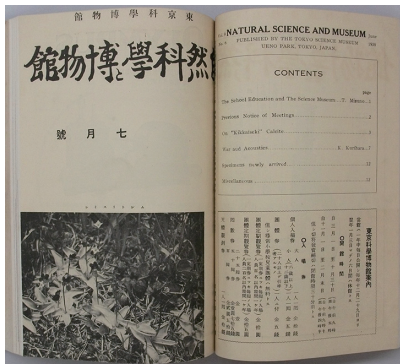


図1 「花粉熱」が掲載された『自然科学と博物館』第9巻7号表紙(左側)。

これは1938年に東京科学博物館発行の『自然科学と博物館』という普及雑誌に掲載された「花粉熱」という記事の一文です(図1)。著者の今関六也氏は菌類の研究者で、当時東京科学博物館(現在の国立科学博物館)に勤務していました。後年神奈川県に住み、神奈川県立博物館(当館の前身)を拠点にアマチュアの指導にあたるなど縁が深かったことから、氏の研究資料一式は当館へ寄贈されました。その寄贈資料を調べる中で hey-fever、つまり花粉症に関する記事を発見したのです。

現在、花粉症に悩む人は多く、日本人の約3割は何らかの花粉症にかかっているという調査結果もあります。日本では1970年代前半から急激に患者数が増え、原因として空気中の汚染物質やストレスの影響があるとされています。それではこの記事が書かれた1930年代には花粉症は無かったのでしょうか。そもそも花粉症はいつから存在するのでしょうか。

最初に花粉症が報告されたのは1819年、牧畜のさかんなイギリスからでした。当時は牧草の干し草(hay)と接触したために発病したと考えられ、hay fever: 枯草熱と名付けられました。イネ科の牧草の花粉が原因であることが立証されたのは1873年のことです。イギリスでは牧草、アメリカではブタクサによる花粉症が問題となっており、日本でも1930年代か

ら花粉症の実験的研究がいくつか行われてはいました。しかし花粉症はごくまれな疾患とされ認識はきわめて薄いものでした。日本で初めて花粉症の症例が報告されたのはブタクサで1961年のことです。この頃から、スギ(1964)、カモガヤ(1964)、イタリアンライグラス(1965)、カナムグラ(1968)、ヨモギ(1969)、シラカンバ(1969)などさまざまな花粉症が毎年のように報告され続け、現在約60種類が確認されています。とくにスギ花粉に悩まされる人は多く患者数は増え続けています(図2)。

この記事が掲載されたのは花粉症がほとんど認識されていない1938年であり、花粉症を初めて一般市民向けに紹介した記録であるかもしれません。今関氏は自身の菌類研究の過程で国内外のさまざまな学術雑誌を読んでおり、偶然にも hay fever (花粉症)に関する報告を発見したのでしょう。

「北米の記録によると(略)最も悪性な花粉熱は八月に入って流行する。その槍玉に挙げられる植物は *Ambrosia trifida* L. (筆者注: オオブタクサ) 及びブタクサ *A. artemisiifolia* L. の仲間である。(略) この不愉快な病気は日本では余り起らないらしい。是は悪性花粉を有する植物が、発病可能の程度に迄広範に且密度高く繁茂して居ない為かも知れない。」

ブタクサは昭和の初め頃に、オオブタクサは戦後に日本に定着し、全土に広がった北米原産の外来植物です。記事が書かれた当時はブタクサが旺盛に繁茂し生息地を広げつつある時期だったようです。未だ見ぬ病について国内で紹介し警告を鳴らす内容ですが、多くの人が花粉症に悩まされる現代を予測するかのような記述もあります。話題は外来植物の問題提起にも及んでおり、外来生物問題は島国日本にとって歴史が深いことをも再認識させられます。

「安心出来ないのはブタクサの猛烈な繁殖地である。ブタクサは米国から何時の頃か日本に渡来し我国に帰化した雑草の一種である。元来渡来植物は一度

新しい土地に於て地の利を占めると旧勢力をおしのけて猛烈な勢で繁殖する。(略) 渡来植物の猛烈な繁殖によって迷惑を感じるの是在来の固有植物ばかりでない。畑や田に迄侵入して農作物の生存さへ脅かさんとする例も少くないのである。ブタクサもその例に洩れず、大分前から東京の渋谷方面にはびこった。前の東京帝大農学部、所謂駒場の大学構内では一面ブタクサ畑の観を呈する迄に至り、その中を通る人は黄色の花粉が服について困ったものだった。やがて我々がブタクサの繁殖力に又その花粉の毒に悩まされ是を敵として戦はねばならぬ日が来ないとは誰が保障しやう。時代は遷り時代は変わる。(略) ブタクサは現在の敵ではないが将来の敵と云ふことができるかもしれない。」

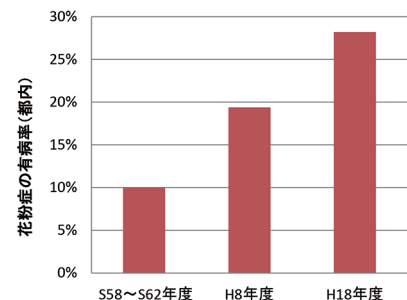


図2 スギ花粉症の推定有病率の推移(島しょ地区を除く都内)。東京都福祉保健局編(2007)を元に作図。

参考文献

齋藤洋三, 1968. 日本の花粉症 Pollinosis. 日本耳鼻咽喉科学会会報, 71 (7): 92 - 99.

齋藤洋三・井手武・村山貢司, 2006. 新版・花粉症の科学. 181 pp. 化学同人, 京都.

東京都福祉保健局編, 2007. 花粉症患者実態調査報告書. pp 16. 東京都福祉保健局健康安全室環境保健課.

特定非営利活動法人花粉情報協会・一般財団法人気象業務支援センター編, 2014. 花粉症環境保健マニュアル. 2+46 pp. 環境省環境保健部環境安全課.

国立研究開発法人国立環境研究所侵入生物データベース <http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>